

<p>学校教育ビジョン                  1 学校教育目標 自ら学び、心豊かでたくましく、未来を切り拓く三谷っ子の育成                  2 「行きたい、行かせたい、行ってみたい学校」を目指して                  子どもも教師も行きたい、保護者が行かせたい、地域の方が行ってみたいと思う三谷小学校                  ①学力を育む…学び続ける意欲、学んだことを生活に生かせる力                  ②心身を育む…望ましい言動を自ら判断し、自己を磨こうとする心情や態度                  ③故郷を愛する心を育む…地域・家庭との連携、実践を通じた協働体制の強化</p>	<p>3 本年度の重点事項                  児童が目当てを持って主体的に取り組み、友と共に自分の成長を実感しながら、知・徳・体のバランスのとれた豊かな体験ができる学校づくりを行う。                  ①確かな学力の向上を目指して【楽しい授業・信頼される教職員】                  ②子供一人一人の心身の育成を目指して【主体性・豊かな人間関係・体力向上】                  ③信頼される学校を目指して【開かれた学校・特色ある学校・安全安心】</p>
--	--

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果(中間)	2学期以降の改善策	判定結果(最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導		各教科の授業のふり返りに重点を置き、自己の変容や新たな課題の発見につながるような授業改善を図る。	教務主任	児童の変容の自覚のためにふり返りを行っているが、授業時間のタイムマネジメントが図れず、ふり返りができないこともある。	【成果指標】 各教科の授業のタイムマネジメントを意識し、ふり返りまで取り組む。	授業のふり返りを意識的にとることができた、実感する教職員の割合が A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。	B	教職員においては、「そう思う」や「そう思う」が半々であり、児童にはふり返りの観点を示すことが効果的であった。また職員の授業改善チェックも集計していき、そして、めざすふり返りの姿として、児童の関心が広まったり、意欲が高まったりして自分自身の成長に気づくふり返りとなるように授業改善を図る。	B	2学期は、めざすふり返りの姿を教師と児童が共有し進められた。今後、自己の変容を認識し、達成感とともに新たな課題を発見するという、つながりのある学びとなるような手立て(例えば、振り返りの振り返りなど)を工夫したい。
		国語科を中心として、学び合いの質のさらなる向上を図りながら、児童一人一人の確かな言葉の力を育成する。	研究主任	高学年を中心に目指す学び合いの姿が育ってきている。しかし、これまでそのよさを児童間で交流する場面があまり取られていなかったため、児童間交流を意識的に取り入れながら、学び合いの質の向上や下学年への伝達を図っていく必要がある。	【成果指標】 児童に学びの主体が自分たちであるという自覚を持たせるために、目指す授業像を児童間で交流するなど、手立てを工夫することができたという教職員の割合が A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	児童に学びの主体が自分たちであるという自覚を持たせるために、目指す授業像を児童間で交流するなど、手立てを工夫することができたという教職員の割合が A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。	B	5月には、6年生が主体的・協働的に学び合う授業を複数回を公開し、1～5年生が参観する児童間交流の取組を行った。授業参観をもとに、授業のよかった部分、今後に活かしていきたい部分などを話し合い、各学年それぞれの目指す授業像を明確にし、児童と担任で共有できた。教職員アンケートでは、8割以上の上位回答を得た。しかし、目指す授業像と実際の児童の姿にはまだ差がみられるので、今後の「学び合い公開授業」等を活用し、再度児童間交流ができる機会を設定し、目指す授業像に迫れるようにしていきたい。	A	2学期に行った「学び合い公開授業」では、教職員間での交流はもちろん、一部児童間交流も図れた。また、教職員アンケートでは、100%の上位回答を得た。来年度は、今年度の課題をふまえ、「目指す授業像」の焦点化や共有化を明確に行い、全校共通理解のもと研究の推進を図っていきたい。
②生徒指導 ※いじめの未然防止		場に応じた気持ちのよいあいさつや言葉遣いの習慣化を図ることで、よりよい人間関係を育成する。	生徒指導主任	元気づけ気持ちの良い挨拶をする児童が増えている。場に応じた言葉遣いやあいさつが実践できているようにしている。	【成果指標】 場に応じた言葉遣いや返事をすることができる。	場に応じた言葉遣いや返事をすることができた児童の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	7月・12月に児童を対象にアンケートを実施する。	A	全校児童が、場に応じた言葉遣いや返事ができた、または、どちらかと言ったと回答していた。しかし、その大切さについての自覚は十分ではない。集会等で、児童が、場に応じた言葉遣いや気持ちの良い返事を実践することが、より良い人間関係につながることを自覚できるような働きかけを行い、児童の意識を高めた。	A	朝の挨拶は非常に大きな声で元気よくできている。進んであいさつすることや場に応じた言葉遣いや気持ちの良い返事を実践することが、より良い人間関係につながることを自覚できるような働きかけを継続して行いたい。
		全教職員の同僚性を高め児童理解を共有するとともに、生徒指導の3機能を生かした授業作りを取り組み、いじめ・不登校の未然防止を図る。	生徒指導主任	月に1度の児童理解の会、学校生活アンケートやQ-Uアンケート、児童との面談などを通じて児童の実態把握を図り、児童のよいところを認め、「自己決定」を意識した授業づくりの実践を進める。	【努力指標】 児童のよいところを認め、「自己決定」を意識した授業実践を行う。	児童のよいところを認め、「自己決定」を意識した授業実践を行うことのできた教職員の割合が A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	7月・12月に教職員を対象にアンケートを実施する。	B	さらに「自己決定」の場を取り入れる授業作りを実践し、児童の良いところや違いを認めていきたい。児童の主体性を引き出すようにすることを通じて、いじめ・不登校の未然防止につなげていく。	B	教職員の「自己決定」を意識した授業実践を行う割合は向上している。今後も児童の良いところや違いを認めていき、「自己存在感」を高め、いじめ・不登校の未然防止につなげていきたい。
③キャリア教育・進路指導		前向きに個々の課題に取り組む、やり遂げた満足感を味わわせ、将来への夢や希望を膨らませる	キャリア担当	明るく素直で仲が良いがお互いに切磋琢磨し、高め合うことや粘り強さを育成する必要がある。	【努力指標】 児童が目標に向かって取り組み、自己評価をできるようにさせる。	学習や行事等において、児童が目標に向かって活動し、自己評価をする機会を持つことができた教職員の割合が A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。	B	目標をもって取り組み、達成感や満足感を味わうことの意義を職員にも伝え、2学期の行事や学習においても目標を持ち、自己評価できる提案をしていきたい。	A	2学期は、目標を持って活動し、自己評価する機会をもたすことができた教員がほとんどであった。今後は、キャリアパスポートにつながる取組を提案していきたい。
④保健管理		児童の発達段階に応じた、バランスの良い体力の向上を目指す。	体育担当	全体的にバランスよく体力の向上が図られているが、柔軟性においてやや弱い傾向がみられる。	【成果指標】 秋の体力テストにおいて、32項目中25項目以上で春の県平均記録を突破する。特に、柔軟性の4項目中2項目以上の突破を目指す。	秋の体力テストにおいて、各体力要素32項目中、春の県平均記録を突破した項目が、 A 25項目以上 B 20項目以上 C 16項目以上 D 16項目未満	春と秋に体力テストを実施し、体力分析を行う。	A	秋の体力テストにおいて、体力項目32項目中28項目で県平均を上回り(目標25項目以上)、良好な結果が得られた。また、県平均と比べ、特に目立って弱い体力項目もなかったため、来年度の春の体力テストの結果をふまえて、新たな目標を立てていく。	A	秋の体力テストにおいて、体力項目32項目中28項目で県平均を上回り(目標25項目以上)、良好な結果が得られた。また、県平均と比べ、特に目立って弱い体力項目もなかったため、来年度の春の体力テストの結果をふまえて、新たな目標を立てていく。
		児童自身に良い姿勢を意識させ、姿勢改善に向けた指導の充実を図る。	養護教諭	授業中や食事時の姿勢が悪い児童が多く、軽度の脊柱側弯症や姿勢異常と診断される児童が20%おり、姿勢に対する意識を向上させる必要がある。	【成果指標】 良い姿勢をとることができる。	よい姿勢をとることができた児童の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月・12月に児童を対象にアンケートを実施する。	C	2学期は「姿勢」をテーマに学校保健委員会を開催し、悪い姿勢の悪影響や正しい姿勢を保つための方法を学ぶ機会を持ち、児童の姿勢に対する意識を高め、良い姿勢の保持につなげていく。	B	学校保健委員会の開催や姿勢ががんばり週間の取り組みを通して、児童の姿勢の意識を高めることができた。特に、授業の号令後、よい姿勢を自分で確認してから座る姿がみられた。姿勢の保持に課題がある児童には声かけを積極的に行っていく。
⑤安全管理		日頃からの防災への備えとその教育の充実を図り、事故や災害の際に的確な行動をとることができるようにする。	教頭	シミュレーションを行って訓練を実施したが、具体的な場面を想定し臨機応変に行動することができていない。	【成果指標】 訓練の際、具体的な場面を想定し本気になって訓練を行うことができたか。	訓練の際、具体的な場面を想定し本気になって訓練を行うことができたか。教職員の割合が A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。	A	地震と防犯の訓練では、より児童の実践力が身につくよう内容を工夫することができた。訓練のときだけでなく、授業で関連させた災害が起きたときの機会を生かしたりして指導し、より日常的なものとし、児童の災害や防犯への意識を高めていく。	A	訓練では、事前指導を充実させ児童の課題意識を高めて行うことができた。高い意識が日常的なものとなるよう保護者と連携して取り組んでいく。
⑥特別支援教育		気になる児童への校内支援体制の定着と継続を図り、児童の特性理解を深め、個に応じた支援を組織的に行う。	特別支援教育コーディネーター	全職員で児童の特性を共通理解し、児童の指導に当たっている。指導法の工夫やスキルを共有し、一人一人の特性に適した支援を継続的に行う必要がある。	【努力指標】 個に応じた支援をするために、職員間の児童への共通理解を深める。	個に応じた支援をするために、児童への共通理解を深めることができた教職員の割合が A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。	B	毎月の児童理解の会を中心に児童の共通理解を図った。校内研修会等を通して、学級や児童の特性や傾向について理解を深めたり、個に応じた指導法やスキルの共有に努めていく。	A	毎月の児童理解の会やQ-Uテストの結果の検討を中心に、児童についての共通理解を図ってきた。さらに個に応じた指導法やスキルの共有に努めていきたい。
⑦組織運営・業務改善		業務の効率化を進め、職員が担当業務に専念する時間を確保し、学校全体の教育力を高める。	教頭	目標退勤時刻をオーバーしたり、家庭に多くの仕事をもち帰ったり、休日に出勤したりしている職員がいる。	【努力指標】 業務を効率化し、勤務時間を短縮する。	業務を効率化し、勤務時間を短縮することができた教職員が A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。	B	日課の変更によって、放課後の会議や打合せなどの時間を確保しやすくなった。教材研究・準備のために多くの時間がかけられているので、ICTの活用、退勤時刻の厳格化、業務効率への意識改革を進め、勤務時間短縮につなげる。	B	複式担当教諭の勤務時間が昨年度に比べて増加しているが、その他の職員はやや改善されている。様々な視点から環境改善を図るとともに、業務効率化のための具体的な取組を通して、その良さを職員が実感できるようにしていきたい。
⑧研修		全職員が前向きに研修に取り組む、研修の成果を共有し、共通実践につなげる。	教頭	日常的に研修報告が行われ共有することができた。さらに、若手研修計画の元、全職員が若手の人材育成に関わるという意識を持つようになればならない。	【努力指標】 全職員が若手研修に関わり、得られた情報を実践に生かす。	若手研修に関わり、得られた情報を実践に生かすことができた教職員の割合が A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。	C	若手研修の意義、方法を周知し、日常的な取組となるようにする。	B	若手と他の職員との日常的な連携はよく図られてきた。今後はさらに若手を意識し、お互いに学び合いながら、よりよい教育活動を進められるようにしたい。
⑨保護者、地域との連携		保護者や地域の方とともに、地域のよさを生かした実践を行い、児童の地域への誇りや郷土愛の心情を涵養する。	教頭	地域人材一覧を活用し、どのクラスも数多くの授業で地域の方を招いて授業を行った。	【努力指標】 地域人材を活用し、児童の郷土愛を育む実践につなげる。	地域人材を活用し、児童の郷土愛を育む実践を行うことができた教職員の割合が A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。	B	より効果的に実践できるよう、地域の方との事前の打ち合わせをしっかりと行い、計画的に進めていく。	A	大変協力的な地域・保護者のもと、授業等において効果的な実践を進めることができた。三谷のよさを児童が実感できる場づくりを工夫していきたい。
⑩教育環境整備		校舎内外の環境整備・環境美化に努め、安全で教育効果を高める教育環境の充実を図る。	教頭	計画的な安全点検を実施している。校地全体の環境整備および地区の安全点検を、育友会・教育後援会・同窓会などと連携して行っている。	【努力指標】 安全点検の結果から、不備な点は早急に対策を行い、安全で効果的な校舎内外の環境整備に努める。	安全点検の結果から不備な点は早急に対策を行い、安全で効果的な校舎内外の環境整備に努めることができた教職員の割合が A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。	B	今後も、適切な時期に点検を実施し、迅速な対応に努める。	A	定期的に点検し、迅速に対応することができた。来年度に向けて、新たな視点で点検項目を見直し、落ち度の無いようにする。

学校関係者評価

- ・とても質の高い教育を実践できている。三谷の教育を、今後、さらに発展継続してほしい。来年度からの外国語活動・英語の学習もしっかりと取り組んでほしい。
- ・加賀市は働き方改革の一環として顔認証を取り入れるが、本校でも、教育の質を落とさないで職員の負担が減るような働き方改革をさらに推進してほしい。
- ・加賀市はプログラミング教育に熱心だが、加賀市の良さを生かした教育の在り方を本校においても検討し、実践をすすめてほしい。
- ・いじめのない学校づくりを進めているのは評価できる。今後も、児童の観察・理解を徹底し、外部機関とも連携していじめのない安心できる学校づくりを推進してほしい。